

授 業 科 目 名	健康科学特別講義Ⅰ		
担 当 者 名	食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900037	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	必修
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康科学特別講義Ⅰはオムニバス形式で、「食」と「リハビリテーション」の観点から、健康をテーマに各専門分野での現状と課題について講義する。 ただし、食物栄養学部教員の場合は、北キャンパスで開講する。リハビリテーション学部教員の場合は南キャンパスで開講する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	健康科学分野における「リハビリテーション」と「食」の専門知識および最新の研究情報などを習得する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	健康科学特別講義概要 運動能力と栄養の関係 (高橋)	事後：運動と栄養の関係の整理 (180分)	
2	健康づくりにおけるリハビリ専門職の役割 (橋元)	事前：健康づくりにおけるリハビリ専門職の役割について考える (90分) 事後：高齢者の健康づくりの現状についてレポート作成 (90分)	
3	運動器疾患における臨床での現状と課題について (石橋)	事前：運動器疾患に関する知識の確認 (30分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解と自己学習 (150分)	
4	小児リハビリテーション② (乳幼児健診について) (佐野)	事前：母子保健事業について調べる (90分) 事後：多職種連携について考察 (90分)	
5	健康増進法と「健康日本21」の取り組み (四元)	事前：「健康日本21」の取り組みについて調べておく (90分) 事後：講義内容、ディスカッションした内容を踏まえ、健康増進について考えをまとめる (90分)	
6	勤労者の健康科学：産業保健分野における予防的リハビリテーション (廣滋)	事前：リハビリ対象者のサルコペニアについての確認 (90分) 事後：配布資料の振り返りと知見をまとめる (90分)	
7	小児リハビリテーション① (脳性麻痺に対する栄養指導：文献紹介とディスカッション (奥田))	事前：配布資料の通読とディスカッションの準備 (90分) 事後：ディスカッションの要点整理と要約 (90分)	
8	「地域包括ケアシステム」における健康概念の捉え方：先行研究の概要を説明後、リハ職・管理栄養士の役割についての意見交流 (大丸)	事前：リハビリ対象者の義肢・装具の概念を理解しておく (90分) 事後：配布資料の振り返りと知見をまとめる (90分)	
9	リハビリテーション医療における義肢装具の位置づけ (大峯)	事前：リハビリ対象者の義肢・装具の概念を理解しておく (90分) 事後：配布資料の振り返りと知見をまとめる (90分)	
10	健康科学特別講義 食物栄養学Ⅰ (戸田) 薬物の体内動態および薬理作用と、主な疾病に対する薬物療法と栄養について	事前：自己の研究における薬と栄養についての確認 (90分) 事後：他の研究での薬と栄養の捉え方の整理 (90分)	

11	栄養生理学（原） 栄養と遺伝子について	事前：遺伝子の発現と栄養の関係を調べておく(90分) 事後：栄養素が及ぼす遺伝子発現についてまとめる(90分)
12	健康科学特別講義 食物栄養学II（渡邊）： 機能性表示食品と特定保健用食品の健康効果の科学的根拠	事前：機能性表示食品と特定保健用食品の定義と実例を調べておく(90分) 事後：科学的根拠から、摂取のあり方を考えまとめる(90分)
13	解剖生理学（田畑）	
14	健康科学特別講義 食物栄養学II（池本）： がん患者の栄養管理	事前：がん治療における有害事象について調べる(90分) 事後：自己の有する専門資格の立場からなにができるかを考察する(90分)
15	食と健康（杉元） 食品が持つ可能性	事前：食品の機能と疾病との関連について調べる(90分) 事後：食品機能についての文献調査を行う(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

担当教員は、次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。

2) 論文抄読は、関連論文や参考書など利用して論文内容の予習しておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

ディスカッション	レポート		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
なし		

参考書又は参考資料等

講義資料については、講義毎に配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

質問等のある場合は、各担当教員のオフィスアワーの時間で対応することになっているので、講義の前後若しくはメール等で事前に担当教員に連絡下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	健康科学特別講義 II		
担 当 者 名	食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900038	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康科学特別講義 II はオムニバス形式で、「リハビリテーション」と「食」について健康科学特別講義 I で学んだことをさらに発展させ、最新の研究情報を各専門分野から提供し、それぞれの分野が抱える問題点について論議する。研究発表のプレゼンテーションを行う。ただし、食物栄養学部教員の場合は、北キャンパスで開講する。リハビリテーション学部教員の場合は南キャンパスで開講する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	健康科学分野における「リハビリテーション」と「食」の専門知識および最新の研究情報などを習得する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	講義概要 (高橋)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
2	精神面・身体面への刺激に対する自律神経活動の把握 (高橋)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
3	運動器疾患に対する最新知見と問題点の把握と課題の整理 (石橋)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
4	勤労者の健康科学：作業関連性筋骨格系障害に対する理学療法 (廣滋)	事前：腰痛について調べる (90分) 事後：筋骨格系障害について整理する (90分)	
5	高齢者・障害者とサルコペニア、廃用症候群 (大峯)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
6	リハビリテーション栄養・概要と適応 (四元)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
7	小児リハビリテーション①(脳性麻痺に対する栄養指導：文献抄録) (奥田)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
8	小児リハビリテーション②(乳幼児健診の効果と課題) (佐野)	事前：乳幼児健康診査について調べる (90分) 事後：現状の課題分析と今後の健診について整理する (90分)	
9	地域共生社会を実現するための地域精神科作業療法の役割 (大丸)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
10	リハビリテーション専門職の現状と課題 地域における多職種連携 (橋元)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
11	食物栄養学 I (渡邊)：食品成分の機能性について I	事前：特定保健用食品の機能性について調べる (90分) 事後：特定保健用食品の機能性関与成分について整理する (90分)	
12	食物栄養学 II (戸田)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
13	食物栄養学 III (池本)：小児食物アレルギーについて	事前：小児食物アレルギーの現状について調べる (90分) 事後：栄養素摂取と成長との関連性について考察する (90分)	

14	食物栄養学Ⅳ（渡邊）：食品成分の機能性についてⅡ	事前：機能性表示食品の機能性について調べる（90分） 事後：機能性表示食品の機能性関与成分について整理する（90分）
15	食物栄養学Ⅴ（杉元）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
準備学習・事後学習等についての補足説明		
1) 担当教員は、次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。 2) 論文抄読は、関連論文や参考書など利用して論文内容の予習しておくこと。		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕		
授業への取り組み姿勢	レポート	
70%	30%	
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
使用しない		
参考書又は参考資料等		
・講義資料については、講義毎に配布する。		
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
質問等のある場合は、各担当教員のオフィスアワーの時間で対応することになっているので、講義の前後若しくはメール等で事前に担当教員に連絡下さい。		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	健康科学研究法特論Ⅰ		
担 当 者 名	食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900050	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	必修
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	健康科学分野に寄与できる研究テーマの選択、データ収集、統計処理など研究デザインに関する一連の方法、ならびにプレゼンテーションや修士論文執筆の方法などについて教授する。 ただし、食物栄養学部教員の場合は、北キャンパスで開講する。リハビリテーション学部教員の場合は南キャンパスで開講する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 修士論文のテーマに従った研究方法および進め方について習得し、実践する。 2) データの収集法と解析法などを学習し、修士論文の発表・執筆出来る素養を養う。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	研究法特論概要 (高橋)		
2	リハビリテーション研究法Ⅰ： 医療保険・介護保険について (橋元)		
3	リハビリテーション研究法Ⅱ：運動器疾患に関する研究デザインの把握と研究の進め方について (石橋)		
4	リハビリテーション研究法Ⅲ：育児期の母親を対象にした質問紙票調査法 質問紙票の作成と実施方法 (佐野)		
5	リハビリテーション研究法Ⅳ：高齢者の健康を考える・認知機能の評価と研究の進め方 (四元)		
6	リハビリテーション研究法Ⅴ：実験系研究デザインの検討 クロスオーバーデザイン (廣滋)		
7	リハビリテーション研究法Ⅶ：小児リハビリテーションの研究法 (計測学的データ収集：文献紹介) (奥田)		
8	リハビリテーション研究法Ⅷ：PECOとFINER 各 自の研究計画考案シート作成・発表と意見交流および課題整理 (大丸)		
9	リハビリテーション研究法Ⅵ：義肢・装具領域の研究テーマの知見から学ぶ (大峯)		
10	栄養研究法：解剖生理学 (田畑)		
11	栄養研究法：生化学 (渡邊)		
12	栄養研究法：栄養生理学 (原)		
13	栄養研究法：臨床栄養学 (池本)		
14	栄養研究法：薬理学 (戸田)		
15	栄養研究法：食品学 (杉元)		

準備学習・事後学習等についての補足説明

- 1) 模擬論文の課題については、指導教員とディスカッション後決定し、講義資料や参考書など利用して模擬論文を作成する。
- 2) 模擬論文については、本講義で論文内容を発表する。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取組み姿勢	レポート		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

- ・講義資料については、講義毎に配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- 1) 授業内容について理解できない箇所がある場合は、講義やオフィスアワー時に質問にしてください。
- 2) レポートを課した場合は、提出期限を厳守してください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	健康科学研究法特論 II		
担 当 者 名	食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900051	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	修士論文研究を遂行するにあたり、各教員が関連する実験方法や研究法について実践を踏えて解説する。食とリハビリテーションにおける臨床医学領域での具体的な例を挙げて学修する。ただし、食物栄養学部教員の場合は、北キャンパスで開講する。リハビリテーション学部教員の場合は南キャンパスで開講する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1. 自らの修士論文テーマについての研究法を習得する。 2. 健康と栄養、リハビリテーションについて管理栄養士あるいは理学療法士、作業療法士がそれぞれ果たす高度な役割について理解する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	健康科学研究法特論演習概要 (高橋)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
2	在宅・施設における介護サービスの現状 (橋元)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
3	地域包括ケアシステムで各専門職に求められる要件：5つのソーシャルワーク機能 (大丸)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
4	高齢者・障害者の事例から学ぶ義肢・装具の活用 (大峯)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
5	育児ストレス関連論文の精読とグループ討議 (佐野)	事前：育児ストレスについて調べる (90分) 事後：育児期の抱える課題について整理する (90分)	
6	研究テーマに関する運動学的視点からの情報交換と課題の整理 (石橋)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
7	研究進捗状況に応じたクリティカルリーディングとディスカッション (廣滋)	事前：関連する論文を準備し、通読する (90分) 事後：講義ポイントとディスカッション内容を整理する (90分)	
8	健康科学研究法演習食物栄養学 (渡邊) 栄養素の機能性研究法	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
9	小児リハビリテーションの研究法 (計測学的データ収集演習) (奥田)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
10	脳活動の評価とその解析 (四元)	事前：与えられたテーマについて調べる (90分) 事後：講義で学んだことについて整理する (90分)	
11	健康科学研究法演習食物栄養学Ⅰ (池本) 食物栄養学Ⅰ：栄養とリハビリテーションについての論文精読と発表、及び討論	事前：栄養とリハビリテーションについての論文を1編以上精読し、そのうちの1編について発表用スライドを作成する。(120分) 事後：討論の要約、および考察(90分)	
12	健康科学研究法演習食物栄養学Ⅱ (渡邊) 食品の機能性成分研究法Ⅰ	事前：食品の機能性成分に関する論文を精読し、スライド発表の準備をする(120分) 事後：討論の内容をまとめる(90分)	

13	健康科学研究法演習食物栄養学Ⅲ（戸田）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）
14	健康科学研究法演習食物栄養学Ⅳ（渡邊）食品の機能性成分研究法Ⅱ	事前：食品の機能性成分の作用機構に関する論文を精読し、スライド発表の準備をする(120分) 事後：討論の内容をまとめる(90分)
15	健康科学研究法演習食物栄養学Ⅴまとめ（杉元）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・各回の講義にて、事後学習等について連絡をします。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業姿勢	レポート		
70%	30%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・適宜資料を配布。		

参考書又は参考資料等

・講義の進度に合わせて、適宜紹介します。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・担当教員へ質問等がある場合、オフィスアワーの時間もしくは、メール等で事前に連絡して下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ		
担 当 者 名	食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900019	授 業 形 態	
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期、2024年度後期
単 位 数	2	履 修	必修
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員について〕	修士論文作成に向けて、研究デザインを検討する。研究テーマを協議し、関連する先行研究の収集と自己の論文への応用についてディスカッションを行う。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1. 前期中に研究内容を決定し、先行研究の論文収集を行う。 2. 研究の実施に伴う条件の検討や実施環境を整備する。 3. 予備研究が実施できる。		
授 業 計 画	準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	研究デザインの検討と先行研究論文の収集 (1)	研究デザインの調査と整理 (60分)	
2	研究デザインの検討と先行研究論文の収集 (2)	研究デザインの調査と整理 (60分)	
3	研究デザインの検討と先行研究論文の収集 (3)	研究デザインの調査と整理 (60分)	
4	研究デザインの検討と先行研究論文の収集 (4)	研究デザインの調査と整理 (60分)	
5	与えられたテーマの情報収集 (1) と研究計画の作成	文献検索と講読	
6	与えられたテーマの情報収集 (2) と研究計画の作成	文献検索と講読	
7	与えられたテーマの情報収集 (3) と研究計画の作成	文献検索と講読	
8	研究の実施 (1)	実験の結果の検証とまとめ	
9	研究の実施 (2)	実験の結果の検証とまとめ	
10	研究の実施 (3)	実験の結果の検証とまとめ	
11	研究の実施 (4)	実験の結果の検証とまとめ	
12	研究の実施 (5)	実験の結果の検証とまとめ	
13	研究結果の検証と考察 (1)	実験の結果のまとめ	
14	研究結果の検証と考察 (2)	実験の結果のまとめ	
15	研究ノートの作成	研究の考察のまとめ	
準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 に つ い て の 補 足 説 明			
研究内容について十分理解すること。欧文論文を講読できること。ディスカッションが出来ること。			
成 績 評 価 の 方 法 〔 評 価 項 目 と 割 合 〕			
レポ-ト	発表内容	研究結果と内容	
30%	30%	40%	
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	

参考書又は参考資料等		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名		特別研究 II		
担 当 者 名		食物栄養学部教員、リハビリテーション学部教員	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド		1900020	授 業 形 態	
学 年		2年	開 講 期	2024年度前期、2024年度後期
単 位 数		6	履 修	必修
ナ ン バ リ ン グ				
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		特別研究Iで計画したように修士論文作成に向けて、実施した研究について検証し、さらに研究の遂行を行う。研究テーマを再度吟味し、計画通りに行っているか、結果は信頼できるかをディスカッションする。論文の作成を行い、修士論文として十分満足できるものかどうかを検証する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		計画通りの結果が得られているか？修士論文として価値があるのか？ディスカッションが十分出来るか？ 研究発表が満足いくものであるかどうか？などが達成できることを目標とする。		
授 業 計 画			準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	与えられたテーマの情報収集と研究計画の作成の再検討 (1)		関連した文献調査	
2	与えられたテーマの情報収集と研究計画の作成の再検討 (2)		関連した文献調査	
3	研究の実施 (1)		研究の結果の検証とまとめ	
4	研究の実施 (2)		研究の結果の検証とまとめ	
5	研究の実施 (3)		研究の結果の検証とまとめ	
6	研究の実施 (4)		研究の結果の検証とまとめ	
7	研究の実施 (5)		研究の結果の検証とまとめ	
8	研究の実施 (6)		研究の結果の検証とまとめ	
9	研究の実施 (7)		研究の結果の検証とまとめ	
10	研究の実施 (8)		研究の結果の検証とまとめ	
11	研究の実施 (9)		研究の結果の検証とまとめ	
12	研究のまとめ 修士論文発表の準備 修士論文の作成		研究のまとめ 修士論文の発表の準備	
13	研究のまとめ 修士論文発表の準備 修士論文の作成		研究のまとめ 修士論文の発表の準備	
14	研究のまとめ 修士論文発表の準備 修士論文の作成		修士論文の作成	
15	修士論文の作成		修士論文の作成	
準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 に つ い て の 補 足 説 明				
研究内容について十分理解すること。欧文論文を講読できること。ディスカッションが出来ることの準備を必ずすること。				

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
修士論文	研究発表		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	栄養生理学特論Ⅰ		
担 当 者 名	原 研 治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900045	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	栄養生理学特論Ⅰでは、健康に関わる生体機能の中で多様な生理学的役割を持っているタンパク質の構造と生理機能を理解する。特にエネルギー代謝に関わる酵素やホルモンの情報伝達、免疫や血液凝固などの生体防御の生理機能を理解する。また、それらの遺伝情報と細胞中での発現を理解する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	栄養に関わる代謝酵素、ビタミンやホルモンのシグナル伝達などの生理機能を理解することにより、肥満や病気の要因が理解できるようになる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	栄養に関わる生体分子の概要説明		
2	蛋白質合成とプロセッシングとシャペロン		
3	酵素の構造と補酵素(ビタミン)		
4	ホルモンの構造と生理機能		
5	ホルモン受容体の生理機能		
6	エネルギー代謝に関わるホルモンのシグナル伝達		
7	サイトカインの栄養生理における役割		
8	エネルギー代謝とそれに関わる酵素及びビタミンの役割		
9	代謝異常による肥満・疾病		
10	生体防御-1 酸素傷害の防御・ストレス適応、熱ショック適応免疫		
11	生体防御-2 免疫反応の基礎・抗体の構造・抗体生産細胞・抗体の利用		
12	生体防御-3血液凝固反応(血液凝固のカスケード)		
13	核酸の構造・PCRの理論と遺伝子疾患		
14	遺伝子組み替え・遺伝子工学の基礎と倫理		
15	初回～14回の内容にて確認テストを行う。		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
対話形式で講義を行うので、予習・復習(特に予習は時間をかけて)しっかりすること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート	授業への取り組み姿勢		
70%	30%		
使 用 テ キ ス ト			

書籍名	著者	出版社
講義用プリントを事前に配布する		
参考書又は参考資料等		
細胞の分子生物学 (THE CELL) 第3版KYOIKUSHA、ヴォート生化学 D.Voet等著 田宮 信雄訳 東京科学同人		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名		栄養生理学特論 II		
担 当 者 名		原 研 治	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド		1900046	授 業 形 態	講義
学 年		2年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数		2	履 修	選択
ナンバリング				
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		栄養生理学特論 II では、特論 I の内容に基づき、栄養に関わる生理活性物質の特性・機能などに関する最近の情報を学習する。具体的には生理機能を裏付ける総説や英文の論文を取り上げ、読み解き、その内容を理解する。これらの総説や論文を通して先端的な知識を修得すると共に、読解力も養成する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕		<ul style="list-style-type: none"> ・ エネルギー代謝に関わる酵素やホルモンのシグナル伝達に関わる最近の研究を理解する。 ・ 上記に関する（英語）論文を輪読し、理解する。 ・ 論文検索、輪読の資料作り及び発表を通して、修士として十分な実力を培う。 		
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	科学論文の抄読について：科学論文の構成、表現などの説明			
2	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（1）（エネルギー代謝）			
3	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（2）（エネルギー代謝と疾患）			
4	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（3）（代謝酵素）			
5	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（4）（代謝酵素と疾患）			
6	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（5）（ビタミン）			
7	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（6）（ビタミンと疾患）			
8	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（7）（ホルモンとシグナル伝達）			
9	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（8）（ホルモンとシグナル伝達）			
10	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（9）（節約遺伝子）			
11	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（10）（肥満）			
12	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（11）（免疫）			
13	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（12）（遺伝子操作）			
14	論文の抄読・質疑応答及び考察・解説（13）（遺伝子改変食物）			
15	全体のまとめ。			

準備学習・事後学習等についての補足説明			
資料を用いての講義及び輪講なので英語論文の予習をしっかりと行うこと。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート	授業への取り組み姿勢		
50%	50%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
講義用プリント及び講読用論文を事前に配布する。			
参考書又は参考資料等			
細胞の分子生物学（THE CELL）第3版KYOIKUSHA、ヴォート生化学 D.Voet等著 田宮 信雄訳 東京科学同人			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
配布したプリント及び論文に予め読んでおく			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	臨床栄養学特論Ⅰ		
担 当 者 名	池本 美智子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900001	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養管理はすべての疾患治療の基本である。この講義では、臨床栄養師で国立機構病院での職務経験を有する教員が、さまざまな疾患について栄養状態の評価、栄養補給法の選定などの栄養管理について講義し、症例を用いた討議を組み込みながら学びを深めていく。</p> <p>※本講義は、大学院生臨床栄養師認定研修履修細則に規定する臨床栄養師認定講座の栄養アセスメント・栄養ケア計画：4時間、症例検討と発表：19時間、退院(所)計画・指導：4時間、在宅栄養ケア・マネジメント：3時間の計30時間として申請できる。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 栄養管理の重要性と各種栄養評価法について理解し、実践力を身につけることができる。</p> <p>2) 各種疾患における栄養療法の意義について理解を深めるとともに、説明できるようになる。</p> <p>3) 習得した知識を臨床の場で活用できるようになる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション：当該講義内容の紹介、学習方法について	事前：臨床栄養学分野における知識の確認(90分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解(90分)	
2	栄養管理の重要性と栄養評価の方法	事前：栄養評価の方法について調べる(90分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解(90分)	
3	栄養投与法の種類と特徴①経静脈栄養法	事前：経静脈栄養法について調べる(90分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解(90分)	
4	栄養投与法の種類と特徴②経腸栄養法	事前：経腸栄養法について調べる(90分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解(90分)	
5	栄養投与法の種類と特徴③経腸栄養法の合併症	事前：これまでの講義内容の確認(90分) 事後：配布資料の振り返りと内容の理解(90分)	
6	消化器疾患の栄養ケア①(肝疾患)	事前：肝臓に機能について知識の確認(90分) 事後：本疾患における多職種連携を考える(90分)	
7	消化器疾患の栄養ケア②(肝疾患)/症例検討	事前：肝疾患の病態における知識の確認(90分) 事後：症例検討を通して多職種連携を考える(90分)	
8	消化管疾患の栄養ケア①(消化器術後)	事前：消化器術後の病態について知識の確認(90分) 事後：本疾患における多職種連携を考える(90分)	
9	消化管疾患の栄養ケア②(食道がん)/症例検討	事前：食道がんについて知識の確認(90分) 事後：症例検討を通して多職種連携を考える(90分)	
10	呼吸器疾患の栄養ケア①(COPD)/症例検討	事前：COPDについての知識の確認(90分) 事後：本疾患における多職種連携を考える(90分)	
11	整形外科領域の栄養ケア(大腿骨近位部骨折)/症例検討	事前：大腿骨近位部骨折についての知識の確認(90分) 事後：症例を通して多職種連携を考える(90分)	
12	血液疾患の栄養ケア(血液・造血器疾患)	事前：血液疾患についての知識の確認(90分) 事後：本疾患における多職種連携を考える(90分)	
13	HIV/AIDSの栄養ケア	事前：HIV/AIDSについての病態の確認(90分) 事後：本疾患における多職種連携を考える(90分)	

14	重症心身障害児（者）の栄養ケア	事前：重症心身障害児（者）に関する知識の確認(90分) 事後：多職種連携を考える(90分)
15	肥満外科手術後患者の栄養ケア	事前：肥満外科手術に関する知識の確認(90分) 事後：多職種連携を考える(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・「事前学習」では、特に症例ディスカッションにおいて、関連論文や参考書など利用して病態と栄養療法について予習しておくこと。
- ・「事後学習」では、当日学習した内容について理解を深めておくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	授業への取り組み姿勢（ディスカッションへの参加状況）		
60%	40%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・適宜プリント等教材を配布する。		

参考書又は参考資料等

- ・随時提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・ディスカッション内容、提出課題等については、適宜評価し、本人にフィードバックする。
- ・質問等のある場合は、オフィスアワーの時間で対応することになっているので、講義の前後若しくはメール等で事前に担当教員に連絡下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名		臨床栄養学特論 II	
担 当 者 名	池本 美智子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900002	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	近年、アレルギー疾患が急増している。その理由として①住環境の変化、②食環境の変化、③精神環境の変化、④体質の変化などが挙げられている。 免疫疾患のひとつである食物アレルギーについて管理栄養士としての専門性を深めるため、主要アレルゲンについて深く学ぶとともに、論文抄読等を通し、最新の情報を身につける。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	「食」に携わる管理栄養士として、食物アレルギーについてどのような場面においても、科学的根拠をふまえ、安心・安全な「食」の提案が出来なければならない。そのための実践力を身につける。		
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	オリエンテーション		
2	免疫疾患と食物アレルギー		
3	文献検索		
4	食物アレルギーの発生機序		
5	食物アレルギー各論 (卵アレルギー)		
6	食物アレルギー各論 (牛乳アレルギー)		
7	食物アレルギー各論 (小麦アレルギー)		
8	食物アレルギー各論 (落花生・くるみアレルギー)		
9	食物アレルギー各論 (エビ・カニアレルギー)		
10	食物アレルギー各論 (ソバ・米アレルギー)		
11	食物アレルギー各論 (多種食物アレルギー)		
12	保育所・学校におけるアレルギー対応		
13	臨床におけるアレルギー対応		
14	論文抄読と考察		
15	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
・近年、免疫異常に関する疾患が増加しているため、免疫学についても学んでほしい。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート	授業への取り組み姿勢		
80%	20%		
使 用 テ キ ス ト			
書籍名	著者	出版社	

・適宜プリント等教材を配布する。		
参考書又は参考資料等		
○「食物アレルギー診療ガイドライン2021」（協和企画）		
○「食物アレルギーの栄養指導の手引き」（食物アレルギー研究会）		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
・新聞等でアレルギーについて良く報道されているので注意して、理解するように。		
・提出課題等については、適宜評価し、本人にフィードバックする。		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	食品学特論Ⅰ		
担 当 者 名	杉元 康志	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900003	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	食品について多面的な観点から学ぶ。栄養的意義、二次機能および三次機能について詳しく解説し、ヒトの健康と食品の持つ潜在的機能について学修する。「食品学特論Ⅰ」では食品成分の化学的なアプローチを中心に、食品の機能について最新の情報を提供する		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 食品成分の構造と機能を理解する。 2) 食品の潜在的機能を理解する。 3) 食品機能性成分のヒトの健康との関連性について理解する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	人間と食品（歴史、食物連鎖、栄養健康、食嗜好、環境）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
2	食品成分①（タンパク質の構造と機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
3	食品成分②（タンパク質の機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
4	食品成分③（糖質の構造と機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
5	食品成分④（脂質の構造と機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
6	食品成分⑤（ビタミンの構造と機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
7	食品成分⑥（ミネラルの機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
8	食と健康①（食品成分の三次機能－概論）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
9	食と健康②（食品成分の三次機能－抗酸化作用）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
10	食と健康③（食品成分の三次機能－代謝調節作用）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
11	食と健康④（食品成分の三次機能－脂質代謝機能）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
12	食と健康⑤（食品成分の三次機能－免疫調節作用）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
13	食と健康⑥（食品成分の三次機能－老化防止作用）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
14	機能性食品（保健機能食品、特別用途食品、特定保健用食品）	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	
15	まとめ	事前：与えられたテーマについて調べる（90分） 事後：講義で学んだことについて整理する（90分）	

準備学習・事後学習等についての補足説明			
関連する文献を紹介する。それぞれのテーマについて解説する。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
授業への取組み姿勢	レポート		
70%	30%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名		食品学特論 II	
担 当 者 名		杉元 康志	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1900004	授 業 形 態
学 年		1年	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		食と健康との関係を深く掘り下げ、食品が持つ健康への貢献性について考える。そのためには食品の潜在的特性や機能について学び、加工性、活用性、創造性について学ぶ。日本人が抱える食生活などの生活習慣についてディスカッションや文献調査し、知識を深める。	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		糖尿病、腎臓病、認知症やアミロイド病について理解をする。それと食生活との関連について習得する。	
授 業 計 画		準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	食品の特性 (1)	文献調査 (180分)	
2	食品の特性 (2)	文献調査 (180分)	
3	食品の特性 (3)	文献調査 (180分)	
4	食品の機能性 (1)	文献調査 (180分)	
5	食品の機能性 (2)	文献調査 (180分)	
6	食品の機能性 (3)	文献調査 (180分)	
7	疾病と食品 (1)	文献調査 (180分)	
8	疾病と食品 (2)	文献調査 (180分)	
9	糖尿病 (1)	文献調査 (180分)	
10	糖尿病 (2)	文献調査 (180分)	
11	腎臓病 (1)	文献調査 (180分)	
12	腎臓病 (2)	文献調査 (180分)	
13	アルツハイマー病と食品	レポート作成	
14	アミロイド病と食品	レポート作成	
15	まとめ	レポート作成	
準 備 学 習 ・ 事 後 学 習 等 に つ い て の 補 足 説 明			
成 績 評 価 の 方 法 〔 評 価 項 目 と 割 合 〕			
レポート	発表	ディスカッション	
70%	20%	10%	
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社

参考書又は参考資料等	
食品学、食品加工学、応用微生物学など参考書	
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	生化学特論 I		
担 当 者 名	渡邊 啓一	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900007	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>生化学は、生命現象を化学的に分子レベルで解明・理解しようとする学問であり、微生物からヒトに至るまでの生物の科学と応用技術の基礎となり、健康栄養学の基本をなすものである。本特論では、代謝、代謝調節および情報伝達に関わるタンパク質や生理活性物質を対象として、それらの分子構造に基づいて機能発現機構を明らかにするための研究手法と成果について理解することを目的とする。各項目に関して背景や確立された基礎的内容を生化学のテキストを使用して理解する。次に、各項目に関わるタンパク質の分子構造に基づいて機能発現機構を明らかにした原著論文を選び、その研究手法、成果、考察、問題点について討論する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1) 代謝、代謝調節、情報伝達に関してこれまでに確立された基礎的内容を理解する。 2) 健康栄養学の観点から自分の関心がある課題に対して、最新の分子レベルで得られた研究論文や総説を読み、理解し、説明し、討論することができる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	代謝調節概論	毎回、前の週に指示する。	
2	酵素活性のアロステリック調節	毎回、前の週に指示する。	
3	シグナル伝達の分子機構	毎回、前の週に指示する。	
4	受容体酵素による情報伝達	毎回、前の週に指示する。	
5	Gタンパク質共役型受容体と二次メッセンジャー	毎回、前の週に指示する。	
6	視覚、臭覚、味覚のシグナル伝達	毎回、前の週に指示する。	
7	リン酸化による調節機構	毎回、前の週に指示する。	
8	ステロイドホルモンによる転写調節	毎回、前の週に指示する。	
9	プロテインキナーゼによる細胞周期の調節		
10	がん遺伝子、がん抑制遺伝子、プログラム化された細胞死		
11	代謝の統合とホルモンによる調節 (1)		
12	代謝の統合とホルモンによる調節 (2)		
13	最新論文のプレゼンテーションと討議		
14	最新論文のプレゼンテーションと討議		
15	最新論文のプレゼンテーションと討議		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
課題に対する学生のプレゼンテーションと討論、教員による説明を組み合わせる授業を行う。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			

レポート	プレゼンテーション	討論	
40%	40%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適時、学術論文、総説を選択して使用する。			
参考書又は参考資料等			
レーニンジャーの新生化学 生化学と分子生物学の基本原則、[上][下]、D.L.Nelson, M.M. Cox 著、川崎敏祐 監修、中山和久 編集、 廣川書店			
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	生化学特論 II		
担 当 者 名	渡邊 啓一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900008	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生命現象の根幹となる働きを担うタンパク質分子の構造と機能発現機構およびその応用に関するこれまでの研究成果について学ぶ。タンパク質科学に関する研究の考え方、手法、成果を健康栄養学領域の技術や研究の基礎として役立てることができるようになることを目的とする。毎回、各項目に関して背景や確立された基礎的内容を生化学のテキストを使用して学ぶ。次に、各項目に関わるタンパク質の分子構造に基づいて機能発現機構を明らかにした原著論文を選び、その研究手法、成果、考察、問題点について討論する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) タンパク質の構造と機能の関係とその研究手法について理解する。 2) 健康栄養学の観点から自分の関心がある課題に対して、最新の分子レベルで得られた研究論文や総説を読み、理解し、説明し、討論することができる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	タンパク質の三次構造	毎回、前の週に指示する。	
2	タンパク質の三次構造		
3	タンパク質のフォールディングと安定性		
4	タンパク質分子と他の分子の相互作用		
5	タンパク質の柔軟性、動きと機能 I 酵素触媒反応		
6	タンパク質の柔軟性、動きと機能 I 酵素触媒反応		
7	タンパク質の柔軟性、動きと機能 II 情報伝達、調節		
8	タンパク質の柔軟性、動きと機能 II 情報伝達、調節		
9	タンパク質の柔軟性、動きと機能 III 能動輸送、運動		
10	タンパク質の柔軟性、動きと機能 III 能動輸送、運動		
11	最新論文のプレゼンテーションと討論		
12	最新論文のプレゼンテーションと討論		
13	最新論文のプレゼンテーションと討論		
14	最新論文のプレゼンテーションと討論		
15	最新論文のプレゼンテーションと討論		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
課題に対する学生のプレゼンテーションと討論、教員による説明を組み合わせる授業を行う。			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート	プレゼンテーション	討論	
40%	40%	20%	
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
適時、学術論文、総説を選択して使用する。			
参考書又は参考資料等			
レーニンジャーの新生化学 生化学と分子生物学の基本原理、[上][下]、D.L.Nelson, M.M. Cox 著、川寄敏祐 監修、中山和久 編集、 廣川書店			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	栄養教育特論Ⅰ		
担 当 者 名	池本 美智子	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900009	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>栄養教育では健康教育の基本をふまえ、生活習慣病や低栄養状態の予防および重症化予防に繋げることが重要である。この講義では、国立機構病院での職務経験を有する教員が、スライド及び配付資料により説明、解説を行い、実践的演習を交えながら授業展開をする。症例を用い、食生活改善の支援ができるよう、討議形式を取り入れながら資質とスキルを習得する。</p> <p>※本講義は、大学院生臨床栄養師認定研修履修細則に規定する臨床栄養師認定講座の栄養教育（生活習慣病：4時間、低栄養状態：6時間、栄養教育の基本：2時間）及び地域栄養活動:2時間の計14時間として申請できる。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 栄養教育と食育の関連を理解し、説明することができる。</p> <p>2) 栄養教育を展開するうえで必要となる理論的関連スキル、資質を習得することができる。</p> <p>3) 生活習慣病、および低栄養状態予防の栄養教育マネジメントの方法を習得し、活用することができる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション： 当該講義内容の紹介、学習方法について	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
2	栄養教育と健康教育・食育： 健康日本21、食育基本法、高齢社会白書等	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
3	栄養教育の実際（1）： 集団栄養教育における栄養媒体の特長	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
4	栄養教育の実際（2）： 個人栄養教育における栄養媒体作成の実際、デモンストレーション	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
5	栄養教育の実際（3）： 個人栄養教育の実際、ロールプレイング	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
6	栄養教育の実際（4）： 個人栄養教育における献立展開の実際	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
7	栄養教育マネジメント(1)： 地域連携と栄養教育(栄養士会等におけるボランティア活動)の実際	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
8	栄養教育マネジメント(2)： 壮年期の生活習慣病予防,重症化予防のための栄養教育	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	
9	栄養教育マネジメント(3)： 高齢期の生活習慣病予防,重症化予防のための栄養教育	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)	

10	栄養教育マネジメント(4)： 健康寿命の延伸とフレイル、サルコペニア予防のための栄養教育	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)
11	栄養教育マネジメント(5)： 低栄養の対策とリハビリテーション栄養管理をふまえた栄養教育	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)
12	栄養教育マネジメント(6)： 在宅高齢者の低栄養改善のための食事の工夫について発表、討議	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)
13	栄養教育マネジメント(7)：ユマニチュードについて	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)
14	栄養教育マネジメント(8)： 訪問栄養指導の実際(ビデオ視聴)、討議	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)
15	総括：臨床栄養師認定領域内容について 受講生によるプレゼンテーション、討議	事前：指定範囲の内容について知識の確認・補充(90分) 事後：当日講義の振り返りと内容の理解(90分)

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・「事後学習」症例ディスカッション等においては、関連論文や参考書など利用して対象者の特徴と栄養療法について予習しておくこと。
- ・「事後学習」対象者に応じた効果的な栄養教育、および教育効果を考察すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	プレゼンテーション	積極的な授業への取組み(ディスカッションへの参加状況)	
60%	25%	15%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・適宜プリント等教材を配布する。		

参考書又は参考資料等

- ・随時提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・ディスカッション内容、提出課題等については、適宜評価し、本人にフィードバックする。
- ・質問等のある場合は、オフィスアワーの時間で対応することになっているので、講義の前後若しくはメール等で事前に担当教員に連絡下さい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	栄養教育特論 II		
担 当 者 名	池本 美智子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900010	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	生活習慣病の予防には、遺伝、環境要因及び食生活を主とするライフスタイルなど、さまざまな要因が関連している。また、低栄養状態においては疾病とともに様々な背景が存在する。ここでは関連の論文をとりあげ、抄読することにより科学的根拠のある情報を得る能力を習得する。また、食事調査法について具体的に取り組み、その結果を以て健康教育・栄養教育プログラムの開発を試みる。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) エビデンスについて栄養教育に関する症例対照研究、症例検討を読み、理解する。 2) 生活習慣病、およびフレイル、サルコペニアの予防を目的とした食事指導及び栄養教育の効果について科学的根拠のある情報を得る能力を習得する。 3) 生活習慣病やフレイル等の予防・改善対策として、健康教育・栄養教育プログラムの開発を試案する。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	エビデンスとは何か?		
2	栄養・健康情報とEBN(1) 栄養・健康情報の種類と価値		
3	栄養・健康情報とEBN(2) 健康・栄養情報の収集の実践		
4	栄養・健康情報とEBN(3) 健康・栄養情報の教材作成と情報発信・評価		
5	栄養疫学と疫学研究の方法(1) 栄養疫学とは、食事調査の種類と方法		
6	栄養疫学と疫学研究の方法(2) 食事調査の実際		
7	栄養疫学と疫学研究の方法(3) 食事調査と質問票		
8	栄養疫学と疫学研究の方法(4) 食事調査結果と評価		
9	栄養疫学と疫学研究の方法(5) 食事調査評価と栄養教育		
10	栄養教育プログラムの開発の試み(1) 栄養教育プログラムの実践と効果		
11	栄養教育プログラムの開発の試み(2) 栄養教育プログラムの開発		
12	栄養教育プログラムの開発の試み(3) 栄養教育プログラムの開発		

13	「地域包括ケアシステム」、「地域支援事業」 (介護保険法)と栄養教育 自立支援の実際(2) 地域包括ケアシステムにおける多職種協働による ケアマネジメントについて	
14	「地域包括ケアシステム」、「地域支援事業」 (介護保険法)と栄養教育 自立支援の実際(3) 在宅での多職種連携,居宅療養管理指導について	
15	総括 栄養教育プログラムの検索と開発の試案 についてプレゼンテーション 討議・まとめ	

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前学習：健康行動及び食行動についての情報収集を心がける。

事後学習：学習内容を整理して、復習を行い、次週の授業に備えるよう心がける。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポート	プレゼンテーション	積極的な授業への取組み姿勢 (ディスカッションへの参加状況)	
50%	35%	15%	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない		

参考書又は参考資料等

・講義で随時提示する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・講義は配付資料(研究報告書,文献,資料など)を適宜用いて進行する。ノートパソコンを持参。

・毎時間、必要な教材・資料として、プリント、冊子などを適宜配付するので、各自ファイリングして活用する。課題のプレゼンテーション時は、発表担当者は事前に資料などの準備を協力して行う。

・提出課題等については、適宜評価し、本人にフィードバックする。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	薬理学特論Ⅰ		
担 当 者 名	戸田 晶久	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900011	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>医療現場における栄養管理・指導、リハビリテーションでのチームアプローチを進める上で、基本的な薬物療法および経腸栄養法による栄養管理の理解やそれらに使用されている薬剤、栄養剤の薬理学および栄養学的知識は必要不可欠である。本講義では、主に自律神経系および糖尿病の関連薬剤、基本的な経腸・経腸栄養剤の体内動態および薬理作用を解説し、それらの薬物療法および経腸栄養法について概説する。また、薬理学分野の英文論文を抄読し、論文内容の把握と理解力を身に付ける。</p> <p>※本講義は、臨床栄養師認定講座の履修相当科目である経腸・経腸栄養法を含む。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>1) 医療従事者として必要な薬剤や経腸及び経静脈栄養剤の知識を習得する。</p> <p>2) 医療従事者として必要な薬物療法および経腸栄養法を習得する。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	自律神経系作用薬①交感神経作用薬・遮断薬		
2	自律神経系作用薬②副交感神経作用薬・遮断薬		
3	自律神経系作用薬③筋弛緩薬・節遮断薬		
4	文献抄読		
5	薬の体内動態に及ぼす食品の影響①代謝過程など		
6	薬の体内動態に及ぼす食品の影響②味覚・食欲など		
7	生活習慣病と薬物治療① 1型糖尿病と薬物療法について		
8	生活習慣病と薬物治療② 2型糖尿病と薬物療法について		
9	栄養管理の重要性・栄養アセスメントおよび栄養療法の種類と選択		
10	経腸・経腸栄養剤の種類と選択		
11	経腸栄養アクセスの管理・経腸栄養アクセスの管理／カテーテル関連血流感染症の診断と治療		
12	栄養療法の進め方と評価		
13	小児の栄養管理		
14	成人の病態別栄養管理		
15	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
<p>1) 6月末までに、循環器系及炎症に関する薬物のレポートを提出してもらいます。</p> <p>2) 次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。</p>			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			

課題レポート	抄読会英語論文レポート		
80%	20%		
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
栄養薬理学	田中芳明、中村強 編	建帛社	
参考書又は参考資料等			
<p>○「第10版Goodman&Gilman薬理学（上下）」 Laurence Brunton 編、高折修二 訳（廣川書店）</p> <p>○「分子神経薬理」（西村書店） ○「New薬理学」田中千賀子、加藤隆一（南山堂）</p> <p>○「NSTガイドブック」日本病態栄養学会編集（メディカルレビュー社）・講義毎に資料を配布する。</p>			
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
<p>※成績評価については、自律神経系薬物と食品と薬物との相互作用に関するレポートおよび糖尿病・薬物療法および静脈経腸栄養に関するレポート（90%）、文献抄読レポート（10%）各レポートの合計で評価する。</p>			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	薬理学特論Ⅱ		
担 当 者 名	戸田 晶久	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900012	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>健康日本21（第二次）の推進において、従来からの食生活の改善や運動習慣の定着等による一次予防に重点を置いた対策を推進するとともに、生活習慣病の発症予防とがん、循環器疾患、糖尿病及びCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などのNCDs（非感染性疾患）の合併症の発症や症状の進展などの重症化の予防に重点を置いた対策を推進すべきであると提言している。</p> <p>「薬理学特論Ⅱ」では、生活習慣病やNCD疾患における薬物治療の概略とそれに必要な医薬品の作用機序および薬理作用、副作用について概説する。また、薬理学分野の英文論文を抄読し、論文内容の把握と理解力を身に付ける。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1) 生活習慣病やNCDs疾患における薬物治療の理解とそれに必要な医薬品の薬理作用および副作用に関する知識を習得する。</p> <p>2) 薬理学分野の英語論文を把握および理解し、まとめる能力を身につける。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	生活習慣病とNCDsについて		
2	循環器系に作用する薬Ⅰ：高血圧症と生活習慣の修正、高血圧と合併症など		
3	循環器系に作用する薬Ⅱ：虚血性心疾患に対する治療薬など		
4	循環器系に作用する薬Ⅲ：脂質異常症（高脂血症）と生活習慣の修正など		
5	文献抄読Ⅰ		
6	炎症に関する薬Ⅰ：痛風および高尿酸血症など		
7	代謝・内分泌に作用する薬Ⅱ：骨粗鬆症とその治療薬など		
8	代謝・内分泌に作用する薬Ⅱ：骨粗鬆症とその治療薬など		
9	呼吸器・消化器系に作用する薬: COPD、気管支喘息および胃潰瘍治療薬など		
10	文献抄読Ⅱ		
11	中枢神経作用薬Ⅰ：パーキンソン病治療薬、アルツハイマー病など		
12	中枢神経作用薬Ⅱ：抗精神病薬、抗不安薬、抗うつ・抗躁病薬など		
13	腫瘍の化学療法薬について		
14	文献抄読Ⅲ		
15	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			

1) 循環器系及炎症に関する薬物のレポートを提出してもらいます。			
2) 次の授業までに行うべき予習・復習について指示します。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
課題レポート	抄読会英語論文レポート①	抄読会英語論文レポート②	抄読会英語論文レポート③
70%	10%	10%	10%
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
・講義毎に資料を配布する。			
参考書又は参考資料等			
○「第12版Goodman&Gilman薬理書（上下）」Laurence Brunton 編（McGraw Hill社）			
○「分子神経薬理」（西村書店）○「New薬理学」田中千賀子、加藤隆一（南山堂）・講義毎に資料を配布する。			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
※成績評価については、循環器系薬物と炎症に関する薬物のレポートおよび骨粗鬆症、COPD、中枢神経系および腫瘍の各治療薬 に関するレポート（70%）、文献抄読レポート（30%）各レポートの合計で評価する。			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	解剖生理学特論Ⅰ		
担 当 者 名	田畑 純	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900015	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>生体の恒常性は、自律神経系・内分泌系・免疫系による総合的な制御によって維持されている。しかしながら、これら3つのシステムによる総合的な制御の仕組みの詳細は明らかにされていない。本講義では、自律神経系による恒常性の仕組みに対する理解を深めるために、植物中枢を解説し、中枢神経系内の神経ネットワーク間の相互作用を概説する。また、神経科学・生理学分野の実験系の英語論文を抄読し、論文内容の把握と理解力を身に付ける。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系内の神経ネットワーク間の相互作用の概要の習得 ・植物中枢の知識の習得 ・実験に関する方法論の知識の習得。 		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	ガイダンス		
2	大脳の構造と機能1		
3	大脳の構造と機能2		
4	間脳の構造と機能		
5	脳幹の構造と機能1		
6	脳幹の構造と機能2		
7	脊髄の構造と機能		
8	神経の情報伝達機構		
9	大脳の情報処理機構		
10	科学論文の読み方		
11	論文の抄読1		
12	論文の抄読2		
13	論文の抄読3		
14	論文の抄読4		
15	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義に関連した内容をよく復習すること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
課題レポート	英語論文の抄読会レポート		
70%	30%		
使 用 テ キ ス ト			

書籍名	著者	出版社
使用しない。		
参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ Principles of Neural Science (McGraw-Hill:第6版) または、カンデル神経科学 (メディカルサイエンスインターナショナル) ・ Guyton Physiology (Saunders;13版) または、医科生理学展望原書20版 (丸善) 		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名		解剖生理学特論 II	
担 当 者 名		田畑 純	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1900016	授 業 形 態
学 年		1年	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		解剖生理学特論 I に引き続き、本講義でも自律神経系による恒常性の仕組みに対する理解を深めるために、脳幹と脊髄の間の神経ネットワークで起こる相互作用を概説する。また、神経科学・生理学分野の実験系の英語論文を抄読し、論文内容の把握と理解力を身に付ける。	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		<ul style="list-style-type: none"> 呼吸/循環中枢、嚥下中枢、および脊髄の間の神経ネットワークによる相互作用に関する知識の習得。 実験に関する方法論の知識の習得。 	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間	
1	ガイダンス		
2	呼吸リズムを産生する呼吸中枢の構造と機能 1		
3	呼吸リズムを産生する呼吸中枢の構造と機能 2		
4	循環中枢(や血管運動中枢)の構造と機能		
5	三叉神経系について		
6	歩行リズムを産生する脊髄神経回路網について		
7	論文の抄読 1		
8	論文の抄読 2		
9	論文の抄読 3		
10	論文の抄読 4		
11	論文の抄読 5		
12	論文の抄読 6		
13	論文の抄読 7		
14	論文の抄読 8		
15	まとめ		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
講義に関連した内容をよく復習すること。			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
課題レポート		英語論文の抄読会レポート	
70%		30%	
使 用 テ キ ス ト			
書籍名		著者	出版社
使用しない。			

参考書又は参考資料等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ Principles of Neural Science (McGraw-Hill:第6版) または、カンデル神経科学 (メディカルサイエンスインターナショナル) ・ Guyton Physiology (Saunders;13版) または、医科生理学展望原書20版 (丸善) 		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	リハビリテーション学特論Ⅰ		
担 当 者 名	橋元 隆、大丸 幸	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900025	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>大丸（7回）：入院日数の短縮化等に伴い、地域包括支援センターを拠点にした地域包括ケア体制には、地域リハビリテーションへの期待も高い。本授業では、地域包括ケアを支えるサブシステムとして地域リハビリテーションを位置づければ地域包括ケアシステムが機能するための実践課題（配布資料）について意見交流しながら進める。</p> <p>橋元（8回）：リハビリテーションの概念は大きく変化し、現在では単に障害に対する治療・訓練というものではなく、高度に進歩した臓器別専門治療を提供し、住み慣れたところで安心して自分らしく暮らせるように具現化するところにある。</p> <p>心身機能の改善のみではなく最終的には「生活支援」という言葉をキーワードとして、地域で人間らしく生きることについて考える。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>大丸（7回）：地域リハビリテーションの実践課題として、理学療法士・作業療法士・管理栄養士が高齢・障害者のための地域生活定着支援のプログラムと、再発防止のための危機介入プログラム実践への関与に貢献できるようになる。</p> <p>橋元（8回）：健康づくりから疾病予防、さらには高度急性期から地域生活に至るまでの過程において、多職種との質の高い連携を構築し、最終的には地域づくりに貢献できる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1 「地域リハビリテーションの考え方とその推移」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
2 「障害を負うということは、人らしく生きることが難しい」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
3 「リハビリテーション医学の限界と生活重視のリハビリテーション」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
4 「在宅障害高齢者がかかえるリハビリテーション医療やケアに関するニーズ」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
5 「ケアチームやケアシステムにリハビリテーション専門職が介入した場合の効果・課題」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
6 「在宅障害老人と家族の介護負担/在宅ケアサービス提供過程における関係スタッフの連携に関する調査・研究」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流からの整理と考察シート作成(90分)		
7 「根拠(EBM)に基づく地域リハビリテーション活動を求めて」より、意見交流(大丸)	事前：配布資料の通読と意見交流の準備(90分) 事後：意見交流と考察シート提出(90分)		
8 社会保障制度について	事前：わが国の社会保障制度の変遷について調べる(90分) 事後：課題への対応を議論できるようにまとめる(90分)		
9 医療保険制度の現状	事前：医療保険の現状を把握しておく(90分) 事後：後期高齢者医療保険についてまとめる(90分)		

10	介護保険制度について	事前：介護保険制度の現状を把握しておく（90分） 事後：身近な事例に対して議論できる（90分）
11	高齢者の生活を支えるとは何か	事前：高齢者の生活支援の現状を把握し、課題について報告する（90分） 事後：身近な事例に対して議論できる（90分）
12	在宅生活を支えるツール：在宅医療・看護・リハ・介護	事前：現状を把握し、事例報告の準備をする（90分） 事後：身近な事例に対して議論できる（90分）
13	健康づくり・介護予防	事前：特に呼吸器疾患をかける高齢者の事例報告の準備をする（90分） 事後：身近な事例に対して議論できる（90分）
14	地域づくりにおける制度・人・組織について	事前：地域包括ケアシステムについて理解しておく（90分） 事後：専門職の役割について説明できる（90分）
15	「健康生活の番人」とは	事前：本学の建学の精神を確認しておく（90分） 事後：食と運動の融合についてまとめる。レポート作成（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

大丸：事前は、指定課題のプレゼン準備と意見交流、事後は考察シートの完成と提出。

橋元：日々の出来事について様々なメディアを通じて情報の収集を図って欲しい。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

※その他欄参照			
課題資料発表と意見交流 (50%)	考察シートの提出 (50%)		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
・参考書からの一部抜粋を資料配布する。		

参考書又は参考資料等

○浜村明德編著「地域リハビリテーションプラクシス」医療文化社、2004

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、

大丸：課題資料の発表と意見交流（50%）、意見交流による考察シートの提出（50%）により評価する。

意見交流による気づきや課題確認のプロセスを重要視。自己の臨床からの持ち寄り課題も歓迎する。

橋元：授業での質疑（50%）、課題（レポートなど）への取り組み（50%）として評価する。

各テーマに基づいたディスカッションができることを期待します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	リハビリテーション学特論Ⅱ		
担 当 者 名	大峯 三郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900052	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーションの対象となる障害者の多くは高齢者であり、その多くは何らかの栄養障害を呈している。リハ実施に際してこの点を考慮する必要性が指摘されている。特に高齢者を対象とする場合の運動療法に際しては疾患や障害特性のみではなく、加齢に伴う筋肉量の減少であるサルコペニアの存在、低栄養やホルモン分泌低下等に留意して介入を図る必要性がある。この科目では疾患固有の栄養障害を知り、栄養障害が運動に及ぼす影響について学習する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 障害と栄養障害との関連性を理解できる。 2) 高齢者の栄養障害に対する運動負荷の影響を理解できる。 3) 高齢者の体力と栄養状態との関連性について理解できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	高齢者・障害者の栄養状態(総論)	事前: 栄養に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
2	高齢者・障害者の栄養スクリーニングとアセスメント	事前: 栄養評価に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
3	高齢者・障害者のサルコペニア(総論)	事前: サルコペニアに関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
4	高齢者・障害者のサルコペニアと運動療法	事前: サルコペニアに関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
5	高齢者・障害者の身体特性	事前: 高齢者の身体特性に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
6	高齢者・障害者の運動特性	事前: 高齢者の運動特性に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
7	栄養管理(リハビリにおける栄養障害と身体運動)	事前: 栄養管理に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
8	栄養管理(疾患と栄養障害)	事前: 栄養管理に関する資料を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
9	文献抄読(高齢者・障害者の体力に関する和文)	事前: 高齢者・障害者の体力に関する文献を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
10	文献抄読(高齢者・障害者の運動特性と身体特性に関する和文)	事前: 高齢者・障害者の運動特性に関する文献を検索する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
11	文献抄読(高齢者・障害者の栄養に関する和文)	事前: 高齢者・障害者の栄養に関する文献を確認する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	
12	文献抄読(高齢者・障害者の栄養に関する英文)	事前: 高齢者・障害者の栄養の英文献を検索する(90分) 事後: 授業内容、資料等を確認し理解を深める(90分)	

13	文献抄読（高齢者・障害者の体力に関する英文）	事前：高齢者・障害者の体力の英文文献を検索する（90分） 事後：授業内容、資料等を確認し理解を深める（90分）
14	文献抄読（高齢者・障害者の運動特性と身体特性に関する英文）	事前：高齢者・障害者の運動特性の英文文献を検索する（90分） 事後：授業内容、資料等を確認し理解を深める（90分）
15	まとめ	事後：文献をまとめ高齢者・障害者の特性を理解する（180分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

文献抄読についてはパワーポイントを使用して実施する

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

授業への取り組み姿勢	抄読発表内容		
50%	50%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
適宜資料を配布予定		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

履修者は英語文検に備えて早めに翻訳を行い準備に専念すること

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	健康運動機能特論Ⅰ		
担 当 者 名	石橋 敏郎、廣滋 恵一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900028	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>エビデンスに基づくリハビリテーション医療は、健康寿命の延伸や生活習慣病の予防にも広がりを見せ、効果的な指導法の追究が重要となっている。健康には食生活を基盤とする栄養面と身体活動を基盤とする行動体力の構築が密接に関連している。そこで、実務家教員の指導の下、身体活動の正確な評価方法と対象者の体力に応じた実践的なアプローチの考案を目指す。</p> <p>健康を維持するための運動機能を正確に測定する機器の取り扱い方法を修得するとともに、運動前後における機能的変化のデータを蓄積・分析する手法を学ぶ。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1. 健康と関連性の高い栄養と運動との関連性を理解できる</p> <p>2. 運動前後の種々の身体反応を客観的に把握することができる</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	運動前後における身体機能変化を把握する意義と方法について(石橋)	事後：配布資料の振り返りと自己学習(180分)	
2	機能解剖と生体機能との関連について(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
3	運動学的分析方法の実践的取り組みについて(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
4	運動力学的分析方法の実践的取り組みについて(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
5	栄養状態と運動との関連性に関する研究内容について(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
6	生体力学的分析の実践的取り組みについて(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
7	身体機能と活動状況との関連性の分析について(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
8	研究テーマに関する情報収集の進め方について(石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく(90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける(90分)	
9	運動機能をとらえる：深部感覚機能のとらえ方(廣滋)	事前：深部感覚の機能について調べる(90分) 事後：深部感覚の評価方法について考察する(90分)	
10	運動機能をとらえる：姿勢保持機能のとらえ方(廣滋)	事前：姿勢バランスについて調べる(90分) 事後：姿勢バランスの評価方法について考察する(90分)	

11	運動機能をとらえる：筋機能のとらえ方（廣滋）	事前：筋機能（筋力・筋持久力）について調べる（90分） 事後：筋機能の評価方法について考察する（90分）
12	運動機能をとらえる：敏捷性のとらえ方（廣滋）	事前：敏捷性について調べる（90分） 事後：敏捷性の評価方法について考察する（90分）
13	運動機能をとらえる：運動機能の低下、運動制限の影響（廣滋）	事前：運動機能低下状態について調べる（90分） 事後：運動機能低下と運動制限について考察する（90分）
14	運動機能への介入（1）：全身振動刺激の効果	事前：全身振動刺激について調べる（90分） 事後：全身振動刺激の効果について考察する（90分）
15	運動機能への介入（2）：全身振動刺激の効果	事前：全身振動刺激について調べる（90分） 事後：全身振動刺激の効果について考察する（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

- ・研究テーマに関する課題の整理と先行研究・調査の確認及び最新情報の入手
- ・文献・ジャーナル等の情報収集と抄読

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

※その他欄参照			

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

- ・必要な資料などは随時配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、授業及び課題等への参加姿勢にて総合的に評価する

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	健康運動機能特論 II		
担 当 者 名	石橋 敏郎、廣滋 恵一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900053	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>疾病及び障害の影響により身体的・精神的・社会的に低下している状態を的確に把握したうえで、その状態を効果的に改善する目的で実施される運動プログラムの効果を検証する手法を学ぶ。その効果判定に使用する機器の意義と使用方法を学びつつ、研究デザインの構築において研究目的の明確化、サンプルサイズや使用機器の選定、データ整理と統計学的分析など、実務家教員の指導の下で、研究の一連の流れを演習形式にて進める。また、後半では運動機能を評価するその他の分析ツールを用いて研究への応用性を検討する。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 健康状態を維持・改善する目的で実施される運動プログラムの目的と意義を説明できる。 運動プログラムの効果検証のために必要な研究デザイン、データ収集と分析といった研究の一連の流れについて先行研究を参考に演習を行いながら理解を深める。 多様な運動機能評価ツールを用いて研究への応用を検討する。 		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	身体機能の効率的分析方法について (石橋)	事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (180分)	
2	運動学的分析と運動力学的分析の違いについて (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
3	運動学的分析への具体的な取り組みについて (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
4	運動力学的分析への具体的な取り組みについて (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
5	研究テーマに沿った測定方法と使用機器の選定 (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
6	研究テーマに沿った研究デザインの考案について (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
7	研究テーマに沿ったデータ分析と医療統計の活用 (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	
8	研究テーマに沿った研究計画書の考案 (石橋)	事前：配布資料を読んで内容を理解しておく (90分) 事後：配布資料を振り返り、自己学習に結び付ける (90分)	

9	表面筋電図を用いた筋活動データ収集に関する基本的処置（廣滋）	事前：筋活動の生理学、筋電図波形について調べる（90分） 事後：筋電計の取り扱いとpreparationについてまとめる（90分）
10	表面筋電図を用いた運動時の筋活動データ収集（廣滋）	事前：表面筋電図を用いた研究について調べる（90分） 事後：筋活動データのまとめ（90分）
11	筋活動データ分析方法（廣滋）	事前：筋活動データの処理方法について調べる（90分） 事後：分析結果について考察する（90分）
12	BIA法での体組成分析に関する基本的処置（廣滋）	事前：体組成分析を用いた文献を調べる（90分） 事後：体組成分析で得られる情報項目を整理する（90分）
13	BIA法での体組成分析方法（廣滋）	事前：体成分分析装置について調べる（90分） 事後：体成分分析結果について考察する（90分）
14	BIA法での体組成分析の応用（廣滋）	事前：体組成分析の臨床応用について調べる（90分） 事後：体組成分析の臨床応用について考察する（90分）
15	表面筋電計または体組成分析装置を用いた臨床研究について発表する（廣滋）	事前：表面筋電計または体組成分析装置を用いた臨床研究について考察し、発表資料を作成する（180分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

・研究テーマに関する情報収集と研究テーマに即したデータ収集と分析

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

※その他欄参照

使用テキスト

書籍名	著者	出版社

参考書又は参考資料等

・必要な資料などは随時配布する。

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

※成績評価については、演習及び課題等への参加姿勢にて総合的に評価する

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	神経障害支援特論Ⅰ		
担 当 者 名	高橋 精一郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900039	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	リハビリテーションの対象には神経・筋疾患や骨・関節疾患、呼吸・循環・代謝障害の内部疾患などがあるが、それらの中には自律神経障害を有しているケースも見られる。自律神経は血圧や呼吸の調節を行うことから、神経活動を解析することで運動負荷量の判断や治療効果の判定指標として利用できる。本授業では自律神経活動の機序を理解するとともに、心電図から自律神経活動を分析し、その意味を解釈する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1) 自律神経活動の機序を理解したうえで、心電図の測定から自律神経活動を分析し、その結果の解釈ができる。 2) 臨床研究における測定指標としての意義を理解し、活用できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	自律神経系の構造と機能	事前：自律神経系の構造と機能の予習（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
2	自律神経活動の機序と身体反応	事前：自律神経活動の機序と身体反応の予習（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
3	自律神経障害の症状	事前：自律神経障害の症状に関する予習（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
4	運動と自律神経活動の関連	事前：運動と自律神経活動との関連を考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
5	自律神経活動の測定方法	事前：自律神経活動の測定方法について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
6	自律神経活動の分析方法	事前：自律神経活動の分析方法について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
7	運動時の自律神経活動の変化	事前：負荷や姿勢変化による自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
8	臥位における自律神経活動の検討	事前：負荷や姿勢変化による自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
9	坐位における自律神経活動の検討	事前：負荷や姿勢変化による自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
10	立位における自律神経活動の検討	事前：負荷や姿勢変化による自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	
11	刺激の違いによる自律神経活動の検討（味覚）	事前：味覚刺激の種類や味の違いによる自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）	

12	刺激の違いによる自律神経活動の検討（視覚）	事前：視覚刺激の種類や刺激の強さの違いによる自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）
13	刺激の違いによる自律神経活動の検討（計算ストレス）	事前：算数計算の二重課題による複合刺激に対する自律神経活動の変化について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）
14	自律神経活動分析の臨床応用	事前：自律神経活動の臨床応用について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）
15	自律神経活動データの統計解析方法	事前：自律神経活動のデータ解析手法について考える（60分） 事後：講義内容の復習（120分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

レポートならびにディスカッションの内容			
100%			

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
随時資料を配布する		

参考書又は参考資料等

授業の中で推薦図書を提示する

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- 1) 各種刺激に対する自律神経活動について、生理学的分析を含めてディスカッションが進められるように準備してほしい。
- 2) 解析した自己の自律神経活動データを考察し、レポートにまとめる。データの解釈についてはフィードバックを行う。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	神経障害支援特論 II		
担 当 者 名	四元 孝道	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900054	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>脳と身体の間わりについて、システム工学的な方法論を用いて、リハビリテーションを考えようという趣旨で、文部科学省新学術領域研究「脳内身体表現の変容機構の理解と制御（略称：身体性システム）」が2014年から5年間、脳科学、リハビリテーション医学、システム工学という3つの分野で「身体性システム科学」なる学問体系の確立を目指して研究が遂行された。その集大成である2冊の本を通読し、これからのリハビリテーションの背景となる「運動制御」と「身体認知」について深く理解し、新しいリハビリテーションの考え方を模索する。そのために指定した書籍を読み、他の教科書を参考に理解を深める。授業ではその内容について情報交換を行い、理解を深める。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体性システム科学とは何かを理解できる 2. 身体性システム科学とリハビリテーションの理論を理解できる 3. 身体認知とリハビリテーションの理論を理解できる 4. 身体性システム科学を背景とした応用事例について理解できる 		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	オリエンテーション (今後の学習内容と方法について)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	
2	身体性システム科学とは何か(1巻P1～P22)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	
3	感覚と運動の統合について (1巻P25～P41)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	
4	運動制御の脳科学 (1巻P43～P74)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	
5	身体運動の変容に関するシステム理論 (1巻P75～P114)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	
6	歩行・運動制御 (1巻P115～P150)	<p>事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく (90分)</p> <p>事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める (90分)</p>	

7	事例応用 1	事前：興味ある事例を選択し、プレゼン準備をする（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し事例への考えを深める（90分）
8	事例応用 2	事前：興味ある事例を選択し、プレゼン準備をする（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し事例への考えを深める（90分）
9	前半まとめ	事前：書籍 1 を振り返り理解不十分な部分を列挙する（90分） 事後：運動制御について理解を深める（90分）
10	身体認知とは 脳の中の自己身体 (2巻P3~P31)	事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める（90分）
11	身体意識の脳科学（2巻P33~P72）	事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める（90分）
12	身体意識の脳内身体表現マーカー (2巻P73~P102)	事前：該当ページを通読し他の関連書籍でも調べておく（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し考えを深める（90分）
13	事例応用 1	事前：興味ある事例を選択し、プレゼン準備をする（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し事例への考えを深める（90分）
14	事例応用 2	事前：興味ある事例を選択し、プレゼン準備をする（90分） 事後：授業中のディスカッションを統合し事例への考えを深める（90分）
15	総まとめ	事前：書籍 2 を振り返り理解不十分な部分を列挙する（90分） 事後：身体認知について理解を深める（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前に指定範囲の教科書を熟読し、他の参考文献を引用し理解を深める。概要をまとめてプレゼンの準備をする。授業中は、指定範囲についてプレゼンを行い、その内容についてディスカッションを行う。疑問点については、授業終了後さらに知らべ手理解を深め。事後で調べたことについて、次回の授業のスタートで報告しさらに理解を深める。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

毎回のプレゼン	授業参加度		
50%	50%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
-----	----	-----

身体システムとリハビリテーションの科学 1 運動制御	大田順 内藤栄一 芳賀 信彦 編	東京大学出版会
身体システムとリハビリテーションの科学 2 身体認知	近藤敏之 今水寛 森岡 周 編	東京大学出版会
参考書又は参考資料等		
各種脳科学の参考文献を探し、紹介しあう。		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	地域活動支援特論Ⅰ		
担 当 者 名	大丸 幸、佐野 幹剛	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900033	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>これからの保健医療福祉の専門職は、「病院完結型の医療から地域完結型の医療への転換」と「競争から協調への転換」という2種類の転換に対応できることが求められている。前半は、これまでの職種別の専門分担であった医療介護福祉の体制を、日本の社会保障制度を担う総合体として、理学療法士・作業療法士・管理栄養士が「地域ケア会議の事例」「地域の困難事例」の演習を通して多機関多職種連携の意識づけを討議・論考する。後半は母子保健事業や特別支援教育における支援技術について討議・論考する。</p>		
授業の到達目標 〔学習成果〕	<p>1. 高齢者/障害者のニーズ把握と支援技術および生活の場の診断と課題分析（ICF分析）ができるようになる。</p> <p>2. 地域で生活する課題のある子どもの評価選択・実施・解釈および支援技術の分析ができるようになる。</p> <p>3. 家庭および保育所、幼稚園、学校など生活の場における課題分析ができるようになる。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	「地域包括ケア体制でのソーシャルワーク機能における多職種の実践課題」と意見交流（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
2	地域ケア会議の事例演習：暴言や暴力で他者との関係性が築けなくて、引きこもりがちな生活をしている独居のうつ病高齢者の事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
3	地域ケア会議の事例演習：本人が機能回復練習に固執して生活が広がらない脳卒中の事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
4	地域ケア会議の事例演習：高次脳機能障害を抱えた独居高齢者の支援事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
5	地域での困難事例演習：暴力を繰り返す息子と離れようとしなない高齢夫婦の事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
6	地域での困難事例演習：徘徊する母親に怒りを露わにする60代の息子の事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
7	家族介護者の裁判事例：JR東海認知症高齢者損害賠償事件の判例事例（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
8	最終回おさらいフリーディスカッション（大丸）	事前：フリーディスカッション意見交流の準備（90分） 事後：意見交流からの整理と考察シート作成（90分）	
9	母子保健事業における乳幼児発達相談の実際と課題：個別支援と家族支援；講義・討議（佐野）	事後：母子保健法について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）	
10	母子保健事業における乳幼児発達相談の実際と課題：地域支援；講義・討議（佐野）	事後：子ども子育て支援法について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）	
11	特別支援教育の現状と課題：発達障害の障害特性；講義（佐野）	事後：児童福祉法について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）	
12	特別支援教育の現状と課題：発達障害に対する評価の選択・実施・解釈；講義・討議（佐野）	事後：学校教育法について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）	

13	特別支援教育の現状と課題：障害特性に応じた合理的配慮；講義・討議（佐野）	事後：障害者の権利条約について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）
14	事例検討：自閉スペクトラム症を持つ子どもの課題分析と包括的支援；グループ討議（佐野）	事後：自閉スペクトラム症について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）
15	事例検討：注意欠如多動性障害を持つ子どもの課題分析と包括的支援；グループ討議（佐野）	事後：注意欠如多動性障害について調べる（90分） 事前：討議した内容の整理と自身の考えを要約（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

大丸：事前は事例の通読と発表準備（プレゼン用の考察シート作成）、事後は考察シートの完成と提出
佐野：9～10回では「母子保健法」「子ども子育て支援法」、11～13回では「児童福祉法」「学校教育法」「障害者の権利に関する条約」について準備学習すること。事後学習として課題レポートを作成すること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

大丸：考察シートの提出 佐野：課題レポートの完成度	大丸：プレゼンと意見交流 佐野：授業への取り組み		
75%	25%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布する）		

参考書又は参考資料等

田中康之・清水順市編集：地域包括ケアにおけるPT/OTの役割, 文光堂,2016
吉浦輪著：地域における連携・協働事例集, 保健医療福祉専門職の連携教育・実践, 協同医書出版社, 2018

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

前半は保健医療福祉専門職の連携教育として、理学療法士・作業療法士・管理栄養士が同席して地域ケア会議の事例や地域の困難事例の演習で意見交流することにより、お互いの職種理解や成長を目指します。
後半の討議では受講生の臨床経験を踏まえた活発な議論を期待しています。課題レポートについてはフィードバック資料として返却します。今後の研究や臨床にご活用ください。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名		地域活動支援特論 II	
担 当 者 名		大丸 幸、四元 孝道	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1900055	授 業 形 態
学 年		2年	開 講 期
単 位 数		2	履 修
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		<p>前半は、特論 I での「地域ケア会議や地域困難事例演習」「院生の事例や文献提示」による意見交流からのバージョンアップとして、地域包括医療ケアの体制づくりには家族介護者支援に欠かせない視点を加えながら、地域リハビリテーション専門職としての事例/課題検討を深める。方法は、各回の事前課題をオンラインで意見交流した検討結果について、最終回は院生のプレゼンから総括する。</p> <p>後半は、高次脳機能障害の病態を理解し症例を通して症状や対応理解を深めた多職種での連携方法をディスカッションしていく。</p>	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		<p>1. 地域活動支援での専門職の事例/課題検討は、自然科学的に対象/現象を捉え、それを分析するだけでは通用しない。実践経験だけを語っても不十分である。組織的実践における方法は、一般性と個別性の複眼的視点、専門的視座と全体論的視座の複眼的視点も重要な課題である。そのため意見交流を通して対象/現象理解・多職種/多機関理解・自己/ネットワーク理解の手がかりを体験することから、地域リハ専門職として地域包括医療ケア体制づくりに貢献できるようになる。</p> <p>2. グループ議論を通して、対象理解・他職種理解・自己理解の手がかりを体験できる。</p>	
授 業 計 画		準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	地域包括医療ケア体制づくりに貢献できるようになるために：1. 基礎資料の事前確認と意見交流の視点、2. 院生の事例/課題紹介と意見交流の視点、3. 困難事例と意見交流の視点を事前オリエンテーション (大丸)	事前：基礎資料の通読と意見交流の準備 (90分) 事後：意見交流の整理と院生の事例/課題提出の準備 (90分)	
2	家族介護者支援の理論的検討の文献から「地域共生社会の実現に向けた改革：家族介護者支援の構想に欠かせない基本的視座の検討」について意見交流 (大丸)	事前：基礎資料の通読と意見交流の準備 (90分) 事後：意見交流の整理と院生の事例/課題提出の準備 (90分)	
3	家族介護者支援と家族機能アセスメントの資料から、「介護者の多様なニーズに応じた支援を展開していくには制度横断的運用や多機関・多職種間のネットワーク構築、市町村・地域包括支援センター・地域の協働が欠かせない」という複眼的視点の意見交流 (大丸)	事前：プレゼン資料の通読と意見交流の準備 (90分) 事後：意見交流の整理と院生の事例/課題提出の準備 (90分)	
4	院生からの事例/課題プレゼン (1) の意見交流から、課題整理する (大丸)	事前：院生の事例/課題紹介：授業前日までに事前提出 (90分) 事後：意見交流と課題の整理 (90分)	
5	院生からの事例/課題プレゼン (2) の意見交流から、課題整理する (大丸)	事前：院生の事例/課題紹介：授業前日までに事前提出 (90分) 事後：意見交流と課題の整理 (90分)	

6	困難事例1：「ゴミ屋敷で暮らす対人不信の40代単身男性」、困難事例2：「両親を支える不登校の高校生」から、複眼的視点のポイントを学ぶ（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流の整理と課題抽出（90分）
7	困難事例3：「入退院を繰り返す依存的な高齢単身女性」、困難事例4：「理解力に不安のある高齢夫婦」から、複眼的視点のポイントを学ぶ（大丸）	事前：配布資料の通読と意見交流の準備（90分） 事後：意見交流の整理と課題抽出（90分）
8	院生自身による前半授業の意見交流の課題整理から、「地域包括医療ケア体制づくりに貢献できる」ための今後の課題に向けてプレゼン（資料提示）することで、最終総括する（大丸）	事前：院生から課題プレゼンの事前提出（90分） 事後：今後に向けた課題の総括（90分）
9	回復期における高次脳機能障害の病態の理解（四元）	事前：配布資料の通読し理解する。（90分） 事後：高次脳機能障害の回復期病態を整理する。（90分）
10	生活期における高次脳機能障害の病態の理解（四元）	事前：配布資料の通読し理解する。（90分） 事後：高次脳機能障害の生活期病態を整理する。（90分）
11	高次脳機能障害事例1：経時的連携事例の検討（四元）	事前：配布資料の通読と意見交換の準備。（90分） 事後：事例1の経時的連携のポイントを整理する。（90分）
12	高次脳機能障害事例2：経時的連携事例の検討（四元）	事前：配布資料の通読と意見交換の準備。（90分） 事後：事例2の経時的連携のポイントを整理する。（90分）
13	高次脳機能障害事例3：横断的連携事例の検討（四元）	事前：配布資料の通読と意見交換の準備。（90分） 事後：事例3の横断的連携のポイントを整理する。（90分）
14	高次脳機能障害事例4：横断的連携事例の検討（四元）	事前：配布資料の通読と意見交換の準備。（90分） 事後：事例4の横断的連携のポイントを整理する。（90分）
15	高次脳機能障害者の地域活動支援のための資源について、ソフト面、ハード面を整理し理解する。（四元）	事前：事例1～4の連携ポイントの整理と意見交換の準備。（90分） 事後：高次脳機能障害者の地域支援についてソフト、ハード両面で整理しまとめる。（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

前半：①家族介護者支援に係る参考資料（指定文献PDFとPP,家族心理の知識PP,高次脳家族支援PP）の事前配布と意見交流

院生作成の事例/課題プレゼン資料の事前提出と意見交流

②困難事例（事例1. 2. 3. 4.）基礎資料配布と意見交流

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

大丸：課題資料の意見交流	大丸：院生プレゼンと課題確認	四元：意見交流参加度	四元：課題レポート提出
25%	25%	30%	20%

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
介護者支援とそのあり方についての理論的検討（指定文献配布）	津田小百合	法律時報92巻10号

参考書又は参考資料等

吉浦輸：地域における連携・協働 事例集,協同医書出版社,2018	
大丸幸・中山広宣：臨床精神科作業療法学, 協同医書出版社, 2023	
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕	
課題資料について意見交流した内容を整理して, 重要課題をフィードバックする. (大丸)	
担当教員の連絡先等	
担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	環境健康生活特論Ⅰ		
担 当 者 名	奥村 チカ子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900035	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	心身機能の多様な障害は健康生活遂行の阻害要素となり、障害を持つ者の生活に多様な障害を惹起する。また、生活障害の現れ方・感じ方は、年齢・性別、生活歴、物理的・社会的な生活環境の違い等により各人各様であり日常における生活動作の遂行から主体的な社会参加までの幅広い生活行為において定型化されるものではない。このため多様な生活障害の評価とその改善のための企画立案はクライアント個別の価値観に対応した支援が求められる。そのため、個別の障がい者の支援については、主体者を支援するという支援理念に基づいた技術面からの多面的かつ具体的な解決策の提案が必要である。ADLやAPDLに代表される生活行為の方法の適切な選択や新たな開発が求められ、それらに対応する自助具・福祉用具の開発、家屋改造等の環境調整、ニーズに応じた移動手段の獲得や開発、ノーマライゼーションを保障するまち作り等について幅広く学習する。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	①生活様式・生活動作のvariationに対する理解を深める。 ②心身機能の障害が生活遂行に及ぼす影響について理解を深める。 ③生活障害を改善する福祉住環境について理解を深める。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	授業の進め方 環境と生活の関係		
2	生活遂行に影響する要因		
3	生活と手の機能		
4	生活遂行における心身障害の影響(1)		
5	生活遂行における心身障害の影響(2)		
6	生活遂行における心身障害の影響(3)		
7	生活遂行における心身障害の影響(4)		
8	生活遂行における心身障害の影響(5)		
9	福祉住環境の基礎		
10	福祉住環境の技法		
11	事例発表(1)		
12	事例発表(2)		
13	事例発表(3)		
14	事例発表(4)		
15	事例発表(5)		
準備学習・事後学習等についての補足説明			

成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート			
100%			
使用テキスト			
書籍名	著者	出版社	
参考書又は参考資料等			
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕			
担当教員の連絡先等			
担当教員E-mail	その他		

授 業 科 目 名	環境健康生活特論 II		
担 当 者 名	奥村 チカ子	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900056	授 業 形 態	講義
学 年	2年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>障害者や高齢者の生活環境について、在宅生活を支える様々な社会サービスを理解するとともに、住環境整備に対する法的制度（介護保険制度）、高齢者や障害者の身体的・心理的特性の理解、疾病別・障害別の住環境整備のあり方などを学ぶ。さらに、住環境整備の共通基本技術として、手すりの取り付けや段差の解消、福祉用具の活用などを学ぶ。演習課題として、事例を通して住宅改修における見取り図作成や福祉用具の製作を行い、生活支援のあり方を検討していく。講義形式にとらわれず、事例検討を中心に住環境整備のあり方を提示していく。</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>高齢者や障害者の在宅生活を支える社会サービスを理解するとともに、生活上の障害を軽減する技法を理解する。</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	授業の進め方		
2	高齢者の生活を支える法的制度		
3	障害者の生活を支える法的制度		
4	バリアフリーとユニバーサルデザイン		
5	物理的環境整備 (1)		
6	物理的環境整備 (2)		
7	物理的環境整備 (3)		
8	人的環境整備 (1)		
9	人的環境整備 (2)		
10	被介護者と介護者の関係		
11	事例発表(1)		
12	事例発表(2)		
13	事例発表(3)		
14	事例発表(4)		
15	事例発表(5)		
準備学習・事後学習等についての補足説明			
成績評価の方法〔評価項目と割合〕			
レポート			
100%			
使 用 テ キ ス ト			

書籍名	著者	出版社
参考書又は参考資料等		
その他 〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	

授 業 科 目 名	小児リハビリテーション支援特論Ⅰ		
担 当 者 名	佐野 幹剛、奥田 憲一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900041	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>この講義は、発達障害専門領域の施設で理学療法（奥田）、作業療法（佐野）の実務経験のある教員が、各研究領域に関するテーマについてグループディスカッションを取り入れながら考察する。</p> <p>主に脳性麻痺や重症心身障害をはじめとする、神経系疾患に伴う姿勢や運動の障害を持つ子ども達に対する介入法の効果判定や計測学的・生理学的評価について探求する。（奥田）</p> <p>社会モデルの中で活用できる関連法規に触れながら、社会的環境の変化に応じた個別支援や家族支援、関連職種との連携など地域での包括的支援について概観する。（佐野）</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>介入法の効果判定に必要な研究デザインの知識を修得するため、文献研究に基づいて、各論文の研究デザインの解説を演習形式で行っていく。また計測学的・生理学的評価についても文献研究と演習形式で手技の確立に努める。（奥田）</p> <p>発達障害を持つ子どもの障害特性に応じた個別支援及び家族支援を理解し支援計画を立案することができる。また、関連職種との連携を含む地域での包括的支援計画を立案することができる。（佐野）</p>		
授 業 計 画	準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間		
1	脳性麻痺や重症心身障害に対するリハビリテーション支援の概念（奥田）；講義	事前：脳性麻痺や重症心身障害に対するリハビリテーション支援について調べる（90分） 事後：リハビリテーション支援を歴史的に要約する（90分）	
2	重症心身障害児・者の臨床像とリハビリテーション（奥田）；講義	事前：重症心身障害児・者の臨床像とリハビリテーションについて調べる（90分） 事後：臨床像とリハビリテーションについて要約する（90分）	
3	重症心身障害児・者に対する非対称変形に関する概念（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：配布資料・文献の要約（90分）	
4	重症心身障害児・者に対する非対称変形に関する計測学的評価（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：配布資料・文献の要約（90分）	
5	重症心身障害児・者に対するポジショニングの効果判定（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：配布資料・文献の要約（90分）	
6	重症心身障害児・者に対する体重免荷環境における身体運動の効果判定（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：配布資料・文献の要約（90分）	
7	脳性麻痺や重症心身障害に対するリハビリテーションの効果判定と研究デザイン（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：配布資料・文献の要約（90分）	
8	発達障害の障害特性について 自閉スペクトラム症、注意欠如多動性障害、限局性学習症（佐野）；講義	事前：発達障害者支援法における発達障害の定義について調べる（90分） 事後：障害特性と支援のあり方について考察（90分）	

9	自閉スペクトラム症を持つ子どもに対する個別支援・家族支援・地域支援の支援計画（佐野）；講義と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：障害特性に応じた支援計画のポイント整理（90分）
10	注意欠如多動性障害を持つ子どもに対する個別支援・家族支援・地域支援の支援計画（佐野）；講義と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：障害特性に応じた支援計画のポイント整理（90分）
11	限局性学習症を持つ子どもに対する個別支援・家族支援・地域支援の支援計画（佐野）；講義と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：障害特性に応じた支援計画のポイント整理（90分）
12	事例検討：発達障害を持つ子どもに対する社会性スキルの包括的支援計画（佐野）；討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：対象事例に対する支援計画のポイント整理（90分）
13	事例検討：発達障害を持つ子どもに対する教科学習スキルの包括支援計画（佐野）；討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：対象事例に対する支援計画のポイント整理（90分）
14	事例検討：発達障害を持つ子どもに対するコミュニケーションスキルの包括支援計画（佐野）；討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：対象事例に対する支援計画のポイント整理（90分）
15	まとめ（奥田）	事前：文献研究による研究デザインのまとめ（90分） 事後：数種類の研究デザインの要約（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

オンライン文献データベースを活用して、授業計画を参考に実際の文献検索に慣れていくこと。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

課題・発表の完成度	授業への取り組み		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

- ・重症心身障害に対するリハビリテーションの効果判定の表現法に興味を持って参加して欲しい。
- ・発達障害に対する包括的支援、他職種連携について理解を深め臨床に生かしてほしい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	小児リハビリテーション支援特論Ⅱ		
担 当 者 名	佐野 幹剛、奥田 憲一	実 務 家 教 員	○
科 目 コ ー ド	1900057	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	<p>この講義は、発達障害専門領域の施設で理学療法（奥田）、作業療法（佐野）の実務経験のある教員が、各研究領域に関するテーマについてグループディスカッションを取り入れながら考察する。</p> <p>「小児リハビリテーション支援特論Ⅰ」での学修を修士論文作成に繋げていくために、主に重症心身障害児・者に対するリハビリテーションの効果判定に関する文献抄読を通して、それらの文献の研究デザインについて考察し理解する。（奥田）</p> <p>発達障害を持つ子どもと家族の課題および分析技法、効果判定に関する研究デザインについて検討・討議する。（佐野）</p>		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	<p>修士論文テーマに関連する文献研究や修士論文の研究デザインに沿って、発表と討議による小児リハビリテーション支援の効果判定の表現法を理解できるようになる。（奥田・佐野）</p>		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	脳性麻痺や重症心身障害に対する効果判定と研究デザイン（奥田）；講義	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
2	重症心身障害児・者の計測学的評価と研究デザイン（奥田）；講義	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
3	重症心身障害児・者の生理学的評価と研究デザイン（奥田）；講義	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
4	重症心身障害児・者の効果判定：シングルケーススタディ①（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
5	重症心身障害児・者の効果判定：シングルケーススタディ②（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
6	重症心身障害児・者の効果判定：比較研究①（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
7	重症心身障害児・者の効果判定：比較研究②（文献研究）（奥田）；発表と討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループディスカッションの要約（90分）	
8	発達障害を持つ子どもの課題と分析技法：読み書きスキルに対する研究デザイン（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）	
9	発達障害を持つ子どもの課題と分析技法：操作スキルに対する研究デザイン（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）	
10	発達障害を持つ子どもの課題と分析技法：ADLスキルに対する研究デザイン（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）	
11	発達障害を持つ子どもの課題と分析技法：社会性スキルに対する研究デザイン（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）	

12	発達障害を持つ子どもの効果判定：量的研究（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）
13	発達障害を持つ子どもの効果判定：質的研究（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）
14	発達障害を持つ子どもの家族に対する課題と研究デザイン（佐野）；検討・討議	事前：配布資料・文献の通読（90分） 事後：グループ討議のまとめと感想（90分）
15	まとめ（奥田）	事前：文献研究による研究デザインのまとめ（90分） 事後：数種類の研究デザインの要約（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

オンライン文献データベースを活用した文献検索が比較的容易に行えること。

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

課題と発表の完成度	授業への取り組み		
80%	20%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
使用しない（都度資料を配布）		

参考書又は参考資料等

特になし

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

・修士論文作成のためには十分な文献研究が必須であることを理解して参加して欲しい。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	精神科リハビリテーション学特論Ⅰ		
担 当 者 名	大丸 幸	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900043	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度前期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	精神疾患の急性期医療から回復過程・地域生活移行・定着および再発予防までシームレスなリハビリテーションサービス（アウトリーチ）を提供するための展開方法や技術を、これまで50年の実践学に基づいた5つの精神科作業療法理論から捉える。そこから精神科作業療法の実践課題は、精神疾患別の理解や病気や障害があっても健やかな生活がもたらされるためのソーシャルワークの機能の視点で意見交流する。そして、精神障害者にも対応する地域包括ケアシステムに関与できる作業療法の技術は、特に長期入院者の変化を質量アセスメントによる効果検証の事例を通して、退院後の生活定着と再発防止プログラムをリカバリー志向の精神保健福祉サービスと地域精神科作業療法との関係について論考する。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 医療から地域精神保健福祉の流れと地域生活定着に必要な精神保健福祉技術を修得する。 2) 地域支援体制づくりの実践事例から、保健医療福祉連携(IPW)ができるようになる。 3) アウトリーチ等の事例演習から、地域に働きかけるリハ専門職の課題を抽出し論考できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	統合失調症の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
2	うつ病の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
3	双極性障害の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
4	自己臭恐怖の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
5	アルコール依存症の疾患理解とICF評価要素： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
6	アルツハイマー病の疾患理解とICF評価要素： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
7	レビー小体型認知症の疾患理解とICF評価要素： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
8	ピック病の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
9	パニック症の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
10	強迫症の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
11	適応障害の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	
12	摂食障害の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）	

13	睡眠障害の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）
14	境界性パーソナリティ障害の疾患理解とICF： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）
15	自閉症の疾患理解とICF評価要素のバランス： 事例討議により、ソーシャルワークの意見交流	事前：配布資料により疾患理解とICF分析（90分） 事後：疾患別事例のソーシャルワーク機能シート（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前は疾患別理解とICF評価要素の発表準備、事後は事例討議によりソーシャルワークの機能向上を目指す討論

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

疾患別ICF分析の発表	ソーシャルワーク機能の意見交流とシート提出		
50%	50%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
臨床につながる精神医学 配布資料あり	渡辺 雅幸	医歯薬

参考書又は参考資料等

二木立：「地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク」,勁草書房,2019

チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著,田中英樹 監訳：「ストレングスモデル」,金剛出版,2017

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

疾患別ICF分析とソーシャルワーク機能シート作成により、リハビリ志向の精神保健福祉サービスの実践を目指す。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	精神科リハビリテーション学特論Ⅱ		
担 当 者 名	大丸 幸	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900058	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナ ン バ リ ン グ			
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	精神疾患の急性期医療から回復過程・地域生活移行・定着および再発予防までシームレスなリハビリテーションサービス（アウトリーチ）を提供するための展開方法や技術を探求する特論Ⅱでは、救急精神病棟の事例演習の討論により精神疾患という人の理解を深めていく。それは、高齢者から障害者・子育てへと広がる地域包括ケアシステムと地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制における精神科リハビリテーションの体制づくりを推敲していく道筋でもある。		
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕	1) 救急精神病院での医療現場の事例レポートから、精神疾患と人の理解を深める。 2) 地域支援体制づくりの実践事例から、保健医療福祉連携(IPW)ができるようになる。 3) アウトリーチ等の事例演習から、地域に働きかけるリハ専門職の課題を抽出し論考できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	精神科救急入院（医療保護入院）・回診：救急処置～抑制帯の解除までの事例演習（P21～56）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
2	病状悪化（逆戻り・昏迷）の薬物療法調整や通電療法：アプローチ法事例演習（P348～400）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
3	深夜勤：CPR（心肺蘇生法）の緊急対応の事例演習（P87～105）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
4	神様：統合失調症の妄想の事例演習（P139～151）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
5	生還者：ゴミの山の幻覚妄想状態の親子の事例演習（P189～210）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
6	外国籍者の緊急措置入院・保護室訪問：大使館を通して家族連絡する事例演習（P105～114）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
7	通電療法：自殺衝動、興奮や錯乱の事例演習（P211～241）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
8	医療と司法：心身喪失者等医療観察法の事例演習（P283～308）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
9	家族：自死の予兆の事例演習（P363～375,384～387）	事前：指定事例の通読により、意見交流の準備（90分） 事後：リカバリー志向による事例論考シート（90分）	
10	修士論文関連文献レビューと論文推敲議論①	事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）	
11	” ②	事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）	
12	” ③	事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）	
13	” ④	事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）	

14	〃	⑤	事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）
15	包括的支援体制において、何故、IPWやIPラーニングが必要となるか：リカバリー志向の体制づくり		事前：関連論文の抽出と発表準備（90分） 事後：プレゼンと意見交流論考シート（90分）

準備学習・事後学習等についての補足説明

事前は事例通読により意見交流できる準備、事後は意見交流した内容をリカバリー志向で整理する。
修士論文テーマ関連文献の検索と論文整理、多職種連携に必要なIPWとIPラーニング

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

事例の発表と意見交流	事例論考シートの提出		
50%	50%		

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
救急精神病棟	野村 進	講談社,2010

参考書又は参考資料等

埼玉県立大学編集：IPWを学ぶ（利用者中心の保健医療福祉連携）,中央法規,2016
矢谷令子他：IPラーニングシリーズ1～5,協同医書出版社,2018
松下正明総編集：精神医療におけるチームアプローチ（臨床精神医学講座S5）,中山書店,2000

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

救急精神病棟の事例演習から、地域包括ケアシステムでの精神科リハビリテーションのリカバリー志向の道筋を論考していくので、自身の臨床課題や事例検討等の話題提供を歓迎します。

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名	リハビリテーション教育学特論Ⅰ		
担 当 者 名	脇田 哲郎	実 務 家 教 員	
科 目 コ ー ド	1900059	授 業 形 態	講義
学 年	1年	開 講 期	2024年度後期
単 位 数	2	履 修	選択
ナンバリング			
授業の概要と方法 〔実務家教員についての特記事項含む〕	理学療法士（以下、PT）や作業療法士（以下、OT）は、将来自分の患者として子供たちやその保護者と出会う。ただ、出会うだけではなく患者一人一人にまた、その患者に対しての施術を行うのに医師や看護師、同僚の療法士と協働で医療に従事しなければならない。そのために、どのような教育を行えばいいのか、教育とは何をなすべきもののかについて能力、職業、市民という視点から解説した書物を参考にしながら考察を深めたい。		
授業の到達目標 〔学習成果〕	1.教育は何をなすべきか、自分なりの考えを持つことができる。 2.将来PT,OTを目指す学生に求められる資質・能力と教育との関係を考察することができる。 3.リハビリテーションと教育との関係を説明できる。		
授 業 計 画	準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及び必要時間		
1	教育は何をなすべきか（改革主題の転換 教育の中の自由 個々の子供に合った教育 「良い仕事にありつための教育」でよいのか ゼロ・サム・ゲームを脱却する道）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の1ページから26ページを読んで疑問点を整理する。	
2	教育は何をなすべきか（「賢明な市民の創出に向けた教育」の擁護 市民形成の難しさ 実験と実践/遺伝の問題 中等工業教育政策の歴史から学ぶこと 青少年政策史から われわれは今後何をなすべきか）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の27ページから44ページを読んで疑問点を整理する。	
3	社会変動と「教育における自由」（他者の自由を制約する自由 子供の自由と不自由 教育する自由）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の53ページから64ページを読んで疑問点を整理する。	
4	社会変動と「教育における自由」（親の位置 親のニーズの限界 教育の自由をめぐる紛争）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の65ページから77ページを読んで疑問点を整理する。	
5	能力にもとづく選抜のあいまいさと恣意性（はじめに メリトクラシーは到来していない メリトクラシーとのちがい①）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の79ページから92ページを読んで疑問点を整理する。	
6	能力にもとづく選抜のあいまいさと恣意性（メリトクラシーとのちがい② メリトクラシーとのちがい③ おわりに）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の92ページから106ページを読んで疑問点を整理する。	
7	生まれつきの能力差に応じた教育？（はじめに 生まれつきの能力差に応じた教育？ 義務教育の多様化・複線化）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の111ページから122ページを読んで疑問点を整理する。	
8	生まれつきの能力差に応じた教育？（優れた才能や個性？ おわりに）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の122ページから128ページを読んで疑問点を整理する。	
9	職業教育主義を超えて（はじめに 職業教育主義 限界）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の122ページから144ページを読んで疑問点を整理する。	

10	職業教育主義を超えて（問題点 日本の文脈 おわりに）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の144ページから154ページを読んで疑問点を整理する。
11	子供たちに市民になってもらうための教育（はじめに 高校生のコードモ化 政治からの隔離）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の155ページから168ページを読んで疑問点を整理する。
12	子供たちに市民になってもらうための教育（何をどう変えていけばよいのか おわりに）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の168ページから176ページを読んで疑問点を整理する。
13	「ボランティアを通して学ぶ」ことの両義性と微妙さ（はじめに 三・一の後は何を考えればよいか ボランティアの居場所 市民社会と共同体）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の179ページから194ページを読んで疑問点を整理する。
14	「ボランティアを通して学ぶ」ことの両義性と微妙さ（ボランティアは何を学ぶのか おわりに）	参考文献「教育は何をなすべきか（広田照幸、岩波書店）の194ページから201ページを読んで疑問点を整理する。
15	学びを振り返って、リハビリテーションと教育の関係について考察する。	これまでの学びを振り返って、リハビリテーションと教育との関係をまとめる。

準備学習・事後学習等についての補足説明

成績評価の方法〔評価項目と割合〕

教育は何をなすべきか、自分なりの考えを持つことができたか。	行末P107を目指す学生に求められる資質・能力と教育との関係を考察することができたか。	リハビリテーションと教育との関係を説明できたか。	
授業中の意見交流の内容（70%）	授業への参加度（20%）	出席状況（10%）	

使用テキスト

書籍名	著者	出版社
「教育は何をなすべきか」	広田照幸	岩波書店

参考書又は参考資料等

その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕

担当教員の連絡先等

担当教員E-mail	その他

授 業 科 目 名		リハビリテーション教育学特論Ⅱ	
担 当 者 名		脇田 哲郎	実 務 家 教 員
科 目 コ ー ド		1900060	授 業 形 態
学 年		2年	講 義
単 位 数		2	開 講 期
ナ ン バ リ ン グ			2024年度前期
授 業 の 概 要 と 方 法 〔実務家教員についての特記事項含む〕		VUCAやBANIといった言葉で時代が表されるように、これからの時代は先の見えない変化の大きな時代だといわれる。そのような時代にあって教育はどうあればいいのか、子供たちにはどのような能力を育成していけばいいのか、平成29年度、30年度改訂の学習指導要領の考え方のもとになったOECDの「Education2030プロジェクト」についてまとめた文献を参考資料にしなが、相互の考えを交流しながら考察を深める。	
授 業 の 到 達 目 標 〔学習成果〕		1.先の見えない変化の大きい時代を生きる子供たちに必要な教育について説明できる。 2.これからの時代を生きる子供たちに求められる資質・能力について説明できる。 3.リハビリテーションと教育との関係について説明できる。	
授 業 計 画		準 備 学 習 (予 習 ・ 復 習 等) の 具 体 的 な 内 容 及 び 必 要 時 間	
1	コンピテンシーという概念について	参考文献1ページから22ページまでを読んで自分の考えをまとめる。	
2	コンテンツとコンピテンシー、プロジェクトの背景と目的について	参考文献22ページから32ページを読んでおく。	
3	2030年の世界（VUCAな時代について 2030年に向けたメガ・トレンドについて）	参考文献33ページから47ページ（3行目）を読んで疑問点等を整理しておく。	
4	2030年の世界（個人レベルでの変化について 教育における「ニュー・ノーマル」について）	参考文献47ページ（4行目）から56ページを読み疑問点等を整理しておく。	
5	Educationn2030プロジェクトの背景と議論の経過について	参考文献57ページから78ページまでを読んで考えをまとめておく。	
6	エージェンシーについて	参考文献79ページから98ページまで読んで疑問点等を整理する。	
7	2030年に求められる「知識」について	参考文献99ページから118ページ（1行目）までを読んで疑問点を整理する。	
8	2030年に求められる「スキル」について	参考文献129ページ（18行目）から141ページ（11行目）までを読んで疑問点を整理する。	
9	3つのドメインの構成要素について	参考文献141ページ（12行目）から149ページまでを読んで疑問点を整理する。	
10	2030年に求められるコンピテンシーとその基盤について	参考文献151ページから175ページまでを読んで疑問点を整理する。	
11	カリキュラム分析とデザイン原理（カリキュラム分析の方法）について	参考文献177ページから190ページ（14行目）までを読んで疑問点を整理する。	
12	カリキュラム分析とデザイン原理（カリキュラム分析の3つの局面）について	参考文献190ページ（15行目）から202ページまでを読んで疑問点を整理する。	
13	国際的なカリキュラム課題への対応について	参考文献203ページから227ページまでを読んで疑問点を整理する。	
14	これからの日本の教育を考える。	参考文献229ページから236ページまでを読んで疑問点を整理する。	

15	これまでの学修を振り返り、リハビリテーションと教育との関係についてまとめる。	これまでの学修を振り返り、リハビリテーションと教育との関係をまとめる。
準備学習・事後学習等についての補足説明		
成績評価の方法〔評価項目と割合〕		
先の見えない変化の大きい時代を生きる子供たちに必要な教育について説明できるか。	これからの時代を生きる子供たちに求められる資質・能力について説明できるか。	リハビリテーションと教育との関係について説明できるか。
授業中の意見交流の内容（70%）	授業への参加度（20%）	出席状況（10%）
使用テキスト		
書籍名	著者	出版社
OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来	白井 俊	ミネルヴァ書房
参考書又は参考資料等		
その他〔受講に際しての注意点、課題(試験やレポート等)に対するフィードバックについて〕		
担当教員の連絡先等		
担当教員E-mail	その他	